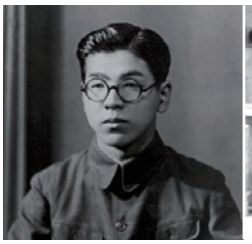
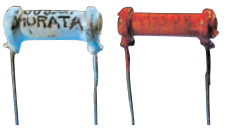
[ムラタ略史] ～チャレンジするムラタの原点～

村田製作所創業

1944年戦時統制下、高圧ガスのある京都市中心部に約150m²の小さな工場を創業。酸化チタンセラミックコンデンサの製造を開始した。しかし、翌年の終戦でコンデンサの需要は無くなり、再開まで絶縁用碍子の生産などで息をつないだ。



創業当時の創業者村田昭（1921-2006）と製作したガス窯。右は1940年代後半に生産されたセラミックコンデンサ。



GHQのラジオ振興策によるセラミックコンデンサ需要急伸を受け、1951年2月、当時の常識を覆す石炭焼成を実用化して、福井県丹生郡宮崎村（現越前町）に工場進出。福井工場は、後に株式会社福井村田製作所として独立する。一方、村田製作所本社は、京都市東部の山科（現京都市山科区）へ、そして1961年京都市南郊の乙訓郡長岡町（現長岡京市）へと移る。

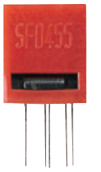
1952年ころの福井工場（左）と山科時代の村田製作所本社（前は国道1号線）。

技術のムラタ

1947年、絶縁セラミックスの提供から始まった京都大学田中助教授との協力関係は、チタン酸バリウム（チタバリ）のコンデンサの実用化をもたらした。1951年には世界初のチタバリ圧電振動子を魚群探知機用に実用化する。また、セラミックコンデンサの寿命特性を改善し、電話回線不通事故を激減させた。戦後の混乱期に原料事情の悪さから不良品を続出させたことがあった。そのときは、計測機を作製して品質確保に努めた。

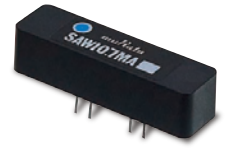
全数検査に用いた手製のQメータと魚群探知機用圧電振動子（1952年ころのもの）。

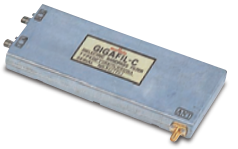
1955年、研究部門を分離独立。電子顕微鏡や分光分析装置など、売上高月1,000万円の小さな企業が、考えられないような最先端装置を導入。1961年、ここでセラミックフィルタ（セラフィル®）や正温度特性チタバリ半導体（ポジスタ®）が世界で初めて商品化される。村田技術研究所は、村田製作所に吸収される1962年まで続く。



1956年導入の電子顕微鏡。右は、世界初のAMラジオ用セラミックフィルタ（上）と、まったく新しい機能が定温発熱ヒータやモータ起動用に展開されたポジスタ®（1980年ころの製品）。

その後も村田製作所は、民生用弾性表面波フィルタ（1975年）や誘電体フィルタ（1975年）などを世界で初めて量産化。1990年には、斬新な構造により航空機の航法装置などに使われていたジャイロセンサの民生部品化（低コスト化・小型化）に成功した。カメラの手ぶれ補正や自動車の方向検知に使われるこのセンサを小さな自転車型ロボットの傾き検知に応用し、記者発表を行った。TV報道されるなど注目を集めた。後には、ムラタセイサク君®としてTV CMや科学イベント、学校訪問などで活躍することになる。





FMラジオ用弾性表面波フィルタ（上）と自動車電話用誘電体フィルタ。右は自転車型ロボット1991年記者発表モデル。

学界への貢献

1951年、村田製作所などが発起人となり、産官学で実用化研究と基礎研究を行う「チタン酸バリウム実用化研究会」が発足。強誘電体セラミックスの発展に多大な役割を果たし、1977年に現在の「強誘電体応用会議」に引き継がれている。

1985年、多くの先生方のご指導により今日のムラタがあることに感謝して、財団法人村田学術振興財団を設立し、以来毎年研究助成や学術研究会助成などを行っている。助成総額は第1回1,650万円であったが、2010年には1億3,000万円に達している。

1950年代に本社で開催されたチタン酸バリウム実用化研究会の会合（左）と村田学術振興財団第1回研究助成受贈者のみなさん（上:前列は財団役員）。

2010年ムラタの世界記録ニュースリリース

1月	世界初! 静電容量の新規格に準拠したデカップリング用積層セラミックコンデンサGWシリーズの商品化
2月	世界最小! 積層セラミックコンデンサ 1608サイズ 10μF 25V定格品の開発
	世界最小・最薄! 表面実装対応の焦電型赤外線センサの開発
3月	世界最薄! モバイル用燃料電池向けマイクロポンプ MZPシリーズの開発
	世界初! 高周波用低損失積層セラミックコンデンサ GQM22シリーズ500V定格品の商品化
	世界最小のBluetooth®モジュール LBMAシリーズ量産開始と累積生産数5億個突破
4月	世界最小! UHF帯RFIDアンテナレスタグ LXMSシリーズの商品化
	世界初! 偏差±1%未満の超高精度チップNTCサーミスタNCPシリーズの量産化
5月	世界最小! 積層セラミックコンデンサ 1005サイズ 10μF 6.3V定格品の商品化
6月	世界初! 超薄型防水対応圧電スピーカーの商品化 −VSLBG1914E1400シリーズ−
9月	世界初! 基板内蔵も可能! コンデンサ 1005（1.0×0.5mm）サイズ厚み220μm 1.0μF 6.3V定格品の商品化
	世界最小! 積層セラミックコンデンサ 2012（2.0×1.25mm）サイズ22μF 25V定格品の商品化

グローバル企業への飛躍

村田製作所は、1950年代に新入幹部候補生の現場実習教育を行うなど、研究開発以外にも先進的な取り組みを行っている。1960年ニューヨークIRE（IEEEの前身）ショーへの出展は戦後日本から初。1962年には経済交流の少なかったソ連へのセラミックコンデンサ製造プラントを輸出。プラント輸出はその後も続き、欧米向けにも拡大。1969年東京証券取引所上場にあたって連結財務諸表を提出したのは当社がその第1号である。1976年のシンガポール市場時価発行上場は日本企業初である。

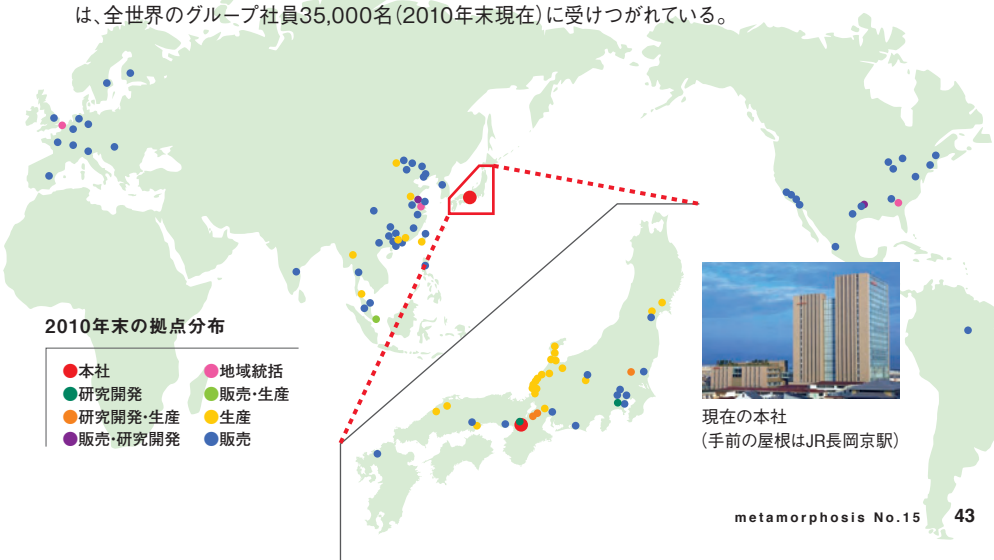
1960年に輸出を開始。この年の輸出額は9,000万円であったが1964年には売上高の23.5%の6億6,500万円となり、通産省から輸出貢献企業に認定される。「市場のあるところで生産し、供給する」を基本ポリシーとして1972年にシンガポール、1973年米ジョージア州に海外現地生産会社を設立した。

IREショー出展とソ連向けプラント設備搬出の様子。

シンガポール（左）と米国ジョージア州の現地生産子会社（いずれも開設当時）。

■現在のムラタ

日本および東アジアを中心に生産拠点をもち、海外開発拠点も米中に展開。今も、世界初や世界最小と、記録をつぎつぎ塗りかえるなど、チャレンジするDNAは、全世界のグループ社員35,000名（2010年末現在）に受けつがれている。



現在の本社
（手前の屋根はJR長岡京駅）